

入学試験問題

教育研究分野	宗教人間文化論、日本文化論、医事法学 科学史技術論、臨床死生学 ソーシャルイノベーション論
科目	論述試験 I

問題 教養(liberal arts)が大学院での学びの重要な要素であるとする立場について、自身の言葉で議論しなさい。その際、次の点に留意すること。

- ・次ページに挙げている新聞記事を読み、論旨を簡潔にまとめなさい。
- ・自身の立場と上で解答した要約との異同を明らかにすること。同意しないという意見でも構いません。
- ・自身の問題意識や研究関心と関連づけて、具体的な例を挙げるなどして、わかりやすく持論を説明すること。ここで求められているのは、自身の具体的な研究計画の説明ではありません。
- ・解答は、解答用紙の第1面に必ず収めること。



出所：『東京読売新聞』（2021年8月1日）「コロナの時代を読む（12）『歴史のなかの地震・噴火』

佐藤信さん」第23面を一部変更。

以上

3/2

岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科博士前期課程  
2025年4月入学 一般入試（第2回）

入学試験問題

教育研究分野	日本文化論
科目	論述試験Ⅱ

問題 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

（朱熹『中庸章句』、台湾中華書局『四書集注』（一九六八年）より引用）

設問1 上の文章をすべて現代語訳せよ。

設問2 近世日本において「鬼神」（死と生を含む）について思想家たちはどのような理解をしたか、自分でテーマを設定し思想史的な視点から論述せよ。

以上

入学試験問題

教育研究分野	ソーシャルイノベーション論
科目	論述試験II

問題 次の設問に全て答えなさい。なお、全ての解答は、解答用紙の第1ページに必ず収めること。

設問1 量的研究法と質的研究法について、それぞれの定義や具体例、およびその長短を比較して説明しなさい。

設問2 次ページに挙げている新聞記事を読み、論旨を簡潔にまとめなさい。その上で、個人誌や私小説を社会科学の研究素材にすることについて、自身の問題意識や研究関心と関連づけて、具体的な例を挙げるなどして、わかりやすく持論を説明しなさい。



出所：『東京読売新聞』（2023年1月28日）「芥川賞『荒地の家族』震災文学『被災後』を見つめ」

第11面。

以上

3/2

